

令和元年度 修了式 挨拶

令和2年3月19日（木）

3月も下旬となりました。すでに全国から桜の便りが届いています。ここ陳場岱の丘にももうすぐ本格的な春がやってきます。私は冬から春に向かう今の季節が一番好きです。何か良いことが訪れそうな、何でも頑張れそうな希望の春です。

慌ただしい2月28日の休校宣言から、もうすぐ一ヶ月が経とうとしています。生徒の皆さんはこの時期をどのように過ごしているのでしょうか。残念ながら今日現在でも病原体流行の見通しが立たず、明確なこれからの学校生活の事を伝えられないもどかしさがあります。しかし、本高生としての自覚と誇りを持ち、自らを律した生活を送っていると信じています。

修了式でお話ししたかった事をここに記し、令和元年度を締めくくりたいと思います。

今年度は春にインフルエンザの流行もありましたが、一年間学校には大きな事故もなく、そのことが何よりも良かったことです。また、生徒の皆さんの頑張りや先生方のご支援のおかげでなべっこ遠足やミニ縁日、球技大会などの行事が大変盛り上がり上げてくれたことを本当に嬉しく思います。

学校生活について振り返ってみます。

まず、部活動では各種大会において大変良く頑張ってくれました。全県定通大会ではバドミントン部の男子団体が3位、卓球部では卒業した金子真羽さんが女子個人でベスト8に輝きました。剣道部では2年生の大城由暉君と1年生の柳田諒哉君が全国大会に出場しました。来年度も大いに期待しています。

文化活動では2年生の村上笑里さんが生活体験発表秋田県大会において優勝してくれました。本高では50年ぶりの快挙です。全国大会にも出場し、みごと文部科学省初等中等局長賞に輝いたことは本高生徒の大きな自信となりました。

学業においては「働学一体」を掲げる定時制課程において、学業とアルバイトの両立を果たした生徒が沢山いたことも嬉しいことでした。時々見学させてもらった授業でも、先生方の話に一生懸命聞き入る姿を頼もしく感じました。卒業した3、4年生の全員進路決定も嬉しいことです。皆さんが出席できなかった卒業式において、先輩達はとても立派な姿勢で高校生活を締めくくってくれました。

1年生はこれからいよいよ2年生となります。勉強もより難しいものになるはずです。それぞれ進路目標が少しずつ固まってきていると思いますが、1年生の内容がおろそかであれば、土台がしっかりしない建物が危ういように、目標達成も非常に難しくなります。今のこの空白となる時期を大切に、しっかり基礎を固めてください。また、入学してくる後輩の良き手本となれるよう、中堅学年としての自覚と責任ある行動を期待します。

2年生、3年生はいよいよ本格的に自分の進路に向かうべき学年となります。いまの新型コロナウイルスの流行で世界の経済は先行きが不安になっています。来年度の就職雇用の状況もどのようになるかわかりません。しかしどのような状況であれ、何事に対しても一生懸命努力でき、人に感謝出来る人物であれば必ず道は開けます。日々の学校生活を大切に、自分自身を磨いてください。

最後に、今のこの事態はピンチではありますが、発想を転換すればチャンスのある時期でもあります。これほど自分の自由になる時間がこれからの人生であるのでしょうか。自分の意思でしっかりと自分の行動をコントロールし、自分の夢の実現に向け、努力する時間としてください。

事故なく健康であることを願い、学校で再会できる日を楽しみにしています。

秋田県立本荘高等学校 校長 檜尾尚樹